

令和7年度第1回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和7年6月4日（木）10：00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター6階 多目的室

議 題：委員の紹介、会長、副会長の選出、本市のごみの現状と取組、第7回寝屋川市環境フェアの開催について、令和7年度寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議スケジュール（予定）、その他

出席者：花嶋会長、荻野副会長、西嶋委員、大島委員、秋山委員、竹川委員、掛川委員、野口委員、水井委員、松下委員、森田委員、斎藤委員、森委員、石村委員

次第1．委員の紹介

（資料1に基づき、事務局より説明）

次第2．会長・副会長の選出

（資料2に基づき、事務局より説明）

次第3．本市のごみの現状と取組

（資料3に基づき、事務局より説明）

委 員：9ページの実施事業の生ごみ処理機購入費補助について、令和6年度は補助件数が32台ということですが、どれだけの世帯の中で32台なのでしょう。本来なら多くの補助を出してみんなに行き渡るのがいいというお話をされてたと思いますが、予算に限りがあり、各世帯に対して行き渡るのが難しいのであれば、各地域の中に集積所を設置し、地域みんなで使っていく方が、現実的に利用率は増えていくのではないのでしょうか。

会 長：事務局の方いかがでしょうか。

事務局：寝屋川市の世帯数は約11万世帯でございます。また、生ごみ処理機購入費補助についてですが、令和6年度は大変人気があったため、令和7年度は予算を増額して取り組んでいるところでございます。生ごみの拠点収集については、設備や場所の関係で難しいのではないかと考えております。

委員：人気がある中で約 11 万世帯中 32 台というのは、なかなか行き渡っていないのかなと感じております。もう一点、先日他府県に行ってきましたが、そこではごみ集積所がなく、道路沿いにネットを設置しておりました。そうすると見た目の問題やカラスの問題が生じます。集積所がしっかりと完備されていくと周りの環境もよくなります。集積所の活用や、よりごみ処理がしやすいようにと考えるということは、周りの環境問題など様々なところに繋がってくるのかなと感じました。

会長：ありがとうございます。他に何かございませんか。

会長：リチウムイオン電池による火災事故が焼却施設で 1 件、破碎処理施設で 1 件、収集車でも 1 件あったということですが、寝屋川市ではリチウムイオン電池の回収はどのようになっているのでしょうか。

事務局：リチウムイオン電池については、寝屋川市でも回収しているところです。14 ページをご覧ください。小型充電式電池回収 BOX を設置しており、この中に入るものは入れていただくように案内をしております。月 2 回の不燃ごみの日においても、排出は可能ですが、リチウムイオン電池は衝撃などに弱いものなので、別袋にリチウムイオン電池と明記するよう伝えています。また、広報をはじめ、各世帯に配布しているクリーンカレンダーにも排出の方法も含め、啓発に努めております。

会長：ありがとうございます。最近では分離できないリチウムイオン電池もあるので、分別等がなかなか難しくなっているかと思えます。他にご意見ご質問等がなければ次の案件に移ります。

次第 4. 令和 7 年度寝屋川市環境フェアの開催について

(資料 4 に基づき、事務局より説明)

会長：それではこの件について何かご意見ご質問等ございますか。

委員：寝屋川市消費者協会として、環境フェアに参加させていただき、着物を洋服に作り替えたものを展示したり、牛乳パックの工作を子どもたちに教えたりしているので、環境フェアに来られた際は、寄っていただければと思います。

会長：他に何かお願いします。なければ私から一点、環境フェアではリチウムイオン電池の火災事故の周知について、あるいはリチウムイオン電池の回収のようなことは実施しないのでしょうか。

事務局：環境にやさしい自動車のゾーンで、環境事業課がごみ収集車を持ち込みます。そのブースの中でリチウムイオン電池をどう扱うべきなのか、どれほど危険なのかを示すようなかたちで、啓発をしていこうと考えています。また、本部席にも啓発用の看板等を設置する予定で作業を進めているところでございます。

会 長：ありがとうございます。やはりこのような火災事故やごみ収集車の火災のようなことがあるということを市民の方に知ってもらう必要があるかと思えます。

会 長：他に何かございませんか。このイベントについてでも先ほどの寝屋川市のごみの現状と取り組みについてでも結構ですので、分からないことがあればご意見をいただければと思います。

委 員：ごみ減量マイスターの養成講座について説明をお願いします。

事務局：ごみ減量マイスターについては、自らごみ減量に取り組むだけでなく、地域の中で周りの方に、知識を広めていただける方と位置づけをしております。ごみ減量マイスターになるには、養成講座にご参加いただくのですが、内容としては当課が実施する講義、ごみ減量マイスターの講義やクリーンセンターの施設見学があります。ごみ減量マイスターになると、コミセン祭りや環境フェアなどにもご参加いただき、我々の啓発活動を手伝ったりしていただいております。

会 長：ありがとうございます。他に何かお願いします。

委 員：環境フェアの寝屋川エコの市で参加を予定しておりますが、エコの市の場所については、車では乗り入れできないのでしょうか。大型の商品を出品する場合、どうしても自転車で運ぶ場合は限界がありますので、車での乗り入れができればありがたいです。

会 長：事務局お願いします。

事務局：車の乗り入れについては、63のブースの方が来られるので、大変混雑してしまうこと、また会場内での置き場所もないことから、会場内への車の乗り入れはお断りしている状況でございます。近隣にコインパーキングがございますので、そちらをご利用いただければと思います。

会 長：ありがとうございます。他にご意見等ありますでしょうか。

委 員：先ほどの火災の件ですが、100%避けることは難しく、行政の対応としても限界があるかと思えます。以前選別メーカーなどに、事前の防止策としてごみ収集車に乗

せる段階で、センサーなどをつけてリチウムイオン電池に反応するような技術はできないのかと聞いたところ、なかなか難しいとのことでした。リチウムイオン電池については、自治体の問題というよりは国の問題であると思っています。

昨年度、環境省から各市町村に 2020 年度から比較し、2030 年度までに一人一日当たりの可燃ごみのごみ焼却量を 16%減少もしくは 580 グラムにするという目標が課せられたが、寝屋川市の達成状況や達成に向けて今後の取り組みはありますでしょうか。

会 長：事務局お願いします。

事務局：寝屋川市一般廃棄物処理基本計画の期間も 2030 年度までとなっております、こちらのごみの総排出量の計画目標につきましては、順調に推移していると考えております。引き続き市民へのごみの分別等の周知を取り組み続けていきます。

会 長：可燃ごみについて 2030 年度までに一人一日当たりのごみ焼却量が 580 グラムということでしたが、5 ページにある数量 773.2 g は総排出量だと思いますが、可燃ごみの数量はどうでしょうか。

事務局：令和 6 年度については、全体の総量は出ていますが、内訳についてはまだ固まっておらず、算出できておりません。

会 長：ありがとうございます。他にご意見等ありますでしょうか。

委 員：資源集団回収で各自治会や団体が雑紙や段ボールを集めていると思うが、クリーンセンターへの持込ごみについては、年間の数量はいくらでしょうか。

事務局：令和 6 年度は 1,375 t になります。近年は同程度の数量で推移しております。

会 長：ありがとうございます。

委 員：自治会のこども会の代表もしており、月に 1 回、子どもたちと一緒に廃品回収で、アルミ缶、新聞、段ボールなどの声掛けをしています。ビンの分別の際に、アルミキャップの切り口の残りの部分は何ごみなのでしょう。また、アルミ缶は潰して捨てた方がいいのか、それとも潰さずにそのまま捨てたほうがいいのか教えてください。

事務局：キャップと同じ材質なので、アルミとしてビンと分別していただければと思います。缶を潰すかということについては、潰していただきたいです。潰さなければごみ収集車が空気を運んでいるようなものなので、その分走行回数が増えることとな

り、燃料もかかります。平たくなるまで潰さなくて結構ですので、軽く潰す程度でのご協力をお願いします。

会 長：他に何かございますか。

委 員：環境フェアは、毎年中央小学校で開催されていますが、必ず中央小学校で開催しないといけないものなのではないでしょうか。

会 長：事務局をお願いします。

事務局：以前は打上川治水緑地で農業まつりと一緒に開催していましたが、開催時期を分けた方がいいということで、環境フェアについては、寝屋川市のほぼ中央に位置する中央小学校で開催している状況です。現状は開催地の変更は考えておりません。

会 長：ありがとうございます。開催がいつも同じ場所だと行きにくい方もいらっしゃると思うので、いろんな場所で開催をする方が嬉しい人もいるかと思います。

委 員：河川敷も案の一つとして検討していただけたらと思います。

会 長：貴重なご意見をありがとうございます。

委 員：環境フェアでゴーヤの苗を無料で配布しているが、なぜゴーヤなのでしょう。きゅうりもツルが伸びると思いますが。

会 長：事務局をお願いします。

事務局：グリーンカーテンは、窓を覆うようにツル性の植物を生育させることで、日光を遮り、室内の温度の上昇を抑え、省エネにつながることから推奨しております。ツル性の植物で比較すると、ゴーヤが一番育てやすいというところで、ゴーヤを推奨しております。

会 長：ありがとうございます。

次第5．令和7年度寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議のスケジュール(予定)について

(資料5に基づき、事務局より説明)

次第6．その他

事務局：次回会議の日程は11月頃を予定しております。また日程が決まり次第、皆様にご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございました。会議終了までまだ時間がありますので、何か聞きたい、言っておこうということなどはありますか。

委 員：火災事故の件で、リチウムイオン電池で発火したとあるが、本当でしょうか。本当なのであれば、電気自動車はリチウムイオン電池なので不安があります。また、持込ごみについて、かなりの数量が持ち込まれているということですが、持込ごみの中には資源になるようなものがあるかと思imasので、資源として有効活用することでごみが減り、資源が増えることにつながるかと思imas。

事務局：5月4日の火災事故につきまして、消防の見解では発火原因は不明との事でしたが、最近の全国的な状況などからリチウムイオン電池が原因であると考えています。

また、持込ごみについては、例えば、リチウムイオン電池が持込ごみとして搬入された場合、持ち込みの時点で内容物の確認を行い、小型家電の中にリチウムイオン電池が組み込まれており、取り外しができる場合は取り外すなど分別をしています。携帯電話の場合は昔のように電池と分けることができないので、別で集めています。このように全て処分の手前で分別し仕分けをしておき、持込ごみに含まれる金属などは売り払いを行い市の歳入として計上しております。

会 長：ありがとうございます。

委 員：小型家電、リチウムイオン電池の回収場所について、今後検討されるのであれば、商店街やガソリンスタンド、大型量販店などが協力し回収することで、環境に貢献している会社だとわかるような取り組みがあればいいかと思imas。地域によって、回収場所が少ない箇所などがあるかと思うので、調査してもよいかと思imas。また、今回参加している皆様と小型家電、リチウムイオン電池、資源ごみなどについて考えていけたらと思imas。

会 長：他に何かございませんか。是非皆さんお気楽にご意見をいただければと思imas。

委 員：自治会などで拠点収集として蛍光灯やスプレー缶の回収ボックスがあるかと思imasますが、スプレー缶は以前までは穴を空けて出していたが、周りからは穴を空けなくてもいいと言われますがどちらでしょうか。

事務局：スプレー缶は穴を空けずに出していただくようお願いします。

会 長：ありがとうございます。他にご意見ご質問等がなければ、本日も予定しておりました案件はすべて終了しました。